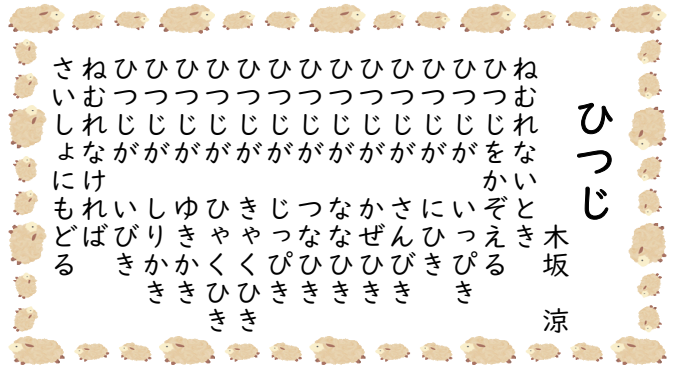




2学期もコロナに気をつけながら…

2学期の始まりだというのは、3度目の緊急事態宣言発令で、他校通級を2週間中止することになりました。また通級再開も場合によっては伸びてしまうかもしれないのがとてもとても申し訳ないですし、残念で仕方ありません。コロナ対策をさらに徹底して、再開に備えます。9月13日からは、他校通級再開予定です。みなさんが元気に通って来てくれるのを待っています。

運動会、遠足、修学旅行、宿泊研修、学習発表会。学校行事が無事にできますように。



「ごっこ遊び」の大切さ

大人が「ごっこ遊び」に加わると、子どもに社会的モデルを示すことができます。そして、そのやりとりのなかで、子ども達はことばを習得していきます。大人が、子どもの語りを引き出す機会をたくさん持つように仕掛けると、自分の経験や想像したことを話す発達を促すことができます。「それからどうしたの?」「それはどうして?」など、子どもが出来事の背景や理由などを説明する質問をすることが大切です。

右の会話は、幼児さんと保育士さんのごっこ遊びのやりとりの一部だそうです。子どもってやっぱり高い学習能力をもっているなと感心します。

1回目は、大人が客として子供に注文したり、質問したりすることで遊びをリードし、子供はそれに答えています。2回目は、大人が子供に新奇的な質問をし、少し考えさせる場面を作っています。3回目には、オープンな質問をし、子供から新しいセリフを引き出しています。4回目になると、子供は大人と役割を交代したいと頼み、それまでに大人が言ったセリフを自分の語りの中で使っています。(下線部)

引用：『ことばとコミュニケーションの発達』
東京学芸大学教職大学院教授 藤野 博

ことばの教室の指導の中でも、ごっこ遊びをすることがあります。子どもにモデルを示すだけでなく、感情の共有をしながら、様々なことばの習得につなげていきたいと思っています。

検温にご協力ください

待合室入り口で、職員が検温し記録表に記入することになりました。ご理解いただき、ご協力をよろしくお願い致します。

【1回目】

大人：ピンポン。こんにちは。
 子供：こんにちは。
 大人：ジュースをください。
 子供：はい。(コップにジュースを入れるふりをする。)
 大人：(出してくれたジュースを飲むふりをして)
 あーおいしかった。いくらですか?
 子供：(ちょっと考えて) 2000円。
 大人：まあ、たかいのね。(とお金を渡すふりをする)
 子供：(お金をもらい、レジに入れるふりをする)
 大人：ごちそうさま。さようなら。
 子供：さようなら。



【2回目】

大人：クリームソーダできますか?
 子供：(考え込む)
 大人：アイスクリームあったよね?
 子供：あ!
 (とソーダを入れるふりをした後に、アイスを入れるふりをする)
 大人：(飲んだふりをして)
 あーおいしかった。いくらですか?
 子供：(ちょっと考えて) 200円。

【3回目】

大人：なにがありますか?
 子供：フルーツもありますよ。
 大人：ジュースにフルーツを入れてください。
 子供：(フルーツを入れたり氷を入れたりした後混ぜるふりをする。)

【4回目】

子供：こうたい(交代)して。
 大人：いいよ。
 子供：ピンポン。
 大人：はい。いらっしゃいませ。
 子供：ソーダください。フルーツものせてね。
 大人：(フルーツを入れたソーダを出すふりをする) どうぞ。
 子供：(飲んだふりをし)
 あー、おいしい。いくらですか?
 大人：500円です。
 子供：(お金を渡すふりをする)
 さようなら。
 大人：さようなら。

